

空き家をどうにかしたい！ 活用したい！ その思いを支援します

本市では、空き家の解体や活用に補助を実施しています。
 〓 空家利活用センター（建築住宅課内）
 ☎027-898-6081

①老朽空き家対策事業

昭和56年5月31日以前に建築された空き家の解体工事費用を補助します。

②二世帯近居同居・住宅支援事業

実家からおおむね1km以内の空き家を、リフォームや解体して新築するための工事費を補助します。

③空き家の活用支援事業

空き家のリフォームや、まちづくりの拠点などとして活用するための改修工事費を補助します。

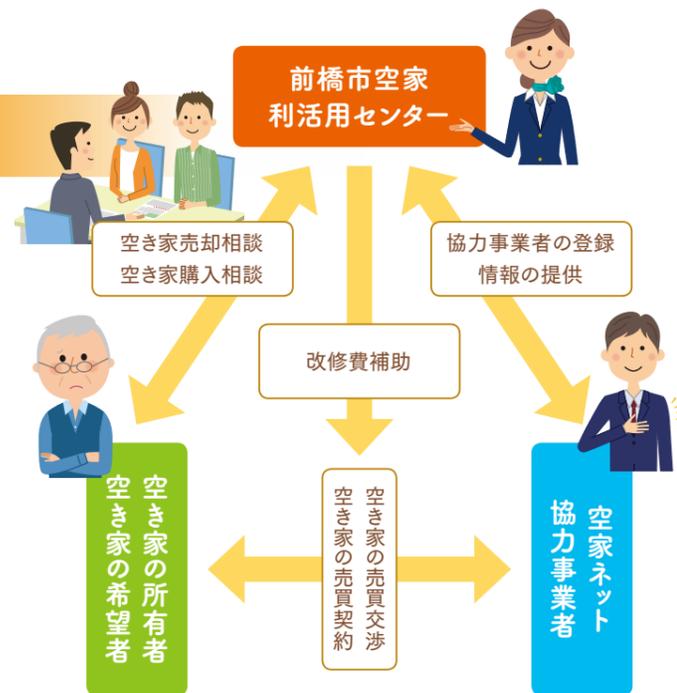
以上①～③の受付期間は11月29日(金)まで。予算額に達し次第終了します。利用前に必ず空家利活用センターに相談してください。



空家ネットイメージ図 ▶▶▶

本市では、空家利活用センターを設置し、空き家に関する相談を受け付けています。持っている空き家を何とかしたい、空き家を手軽に相談してください。

また、市内の不動産業者と連携した空家利活用ネットワーク事業も実施。空き家の賃貸や売買の相手をみつけるときに利用できます。マイホームを考えると、夢の実現の場を探すとき、空き家を選択肢の一つにしてみてください。



生まれ変わり②

誰も使っていない空き家を
リフォームでマイホームに!

武田さん一家
(左から) 結子さん、瑞央ちゃん、龍太郎さん、結愛ちゃん



昨年12月に渋川市から引っ越してきた武田さん一家。空き家をリフォームして住んでいます。「マイホームがほしいと考えていましたが、転勤が多い仕事柄、いずれ手放すことになるかもしれないなと思っていました。でも、マンションでは少し狭いし、のびのび生活したいと考えていて。そこで、コストを抑えられる空き家の活用を選択しました」と龍太郎さん。市で実施している補助金を使い壁や天井、床などをリフォーム。元々空き家だったことによる不便さはなく、快適に暮らしているそう。誰にも使われずにいた空き家が、武田さん一家のマイホームとして生まれ変わりました。



生まれ変わり③

近所にあった空き家を
地域福祉のつながりの場に

ノアサービス(山王町一丁目)
代表 丸山 豊枝さん
専務 丸山 直人さん

高齢者や障害者の福祉に興味があった丸山さん親子は、介護施設を紹介する会社を設立。近所の空き家をリフォームし、事務所と談話室などを兼ね備えたコミュニティフロアを作りました。聴覚障害を持ちながらもパソコンが得意な直人さんと、母の豊枝さんがここで一緒に活動しています。近所でずっと気になっていた空き家。こうした活用で地域から空き家を減らせたとともに、新築よりも安く済むなどのメリットもありよかったですと2人は話します。現在この場所は、地域の高齢者や障害者の困りごと相談の窓口にも。空き家を活用した、新たな地域のコミュニティの場が生まれました。



丸山 直人さん